



「支え合い、助け合い、思いやりにあふれる学校」づくり ～福祉・ボランティア活動の充実をとおして～

山形市立第六中学校

本校では昭和38年にJRC（青少年赤十字）に全校加盟を果たし、「気づき、考え、進んで実行」をスローガンとして、50年以上にわたり地域社会に貢献する活動を行ってきました。その伝統を引き継ぎ、生徒たちが仲間と支え合い、助け合って、よりよい社会をつくる、そんな思いやりにあふれる学校を目指しています。そのために、福祉・ボランティアを教育活動の柱に位置づけ、様々な取り組みを行っています。その一端をご紹介します。

七ヶ浜町復興支援ボランティア

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県七ヶ浜町の復旧・復興を応援するために、大震災翌年の平成24年から毎年7月に2学年の学年行事として、現地での作業を行っています。1年目は、重機では撤去できない田圃のガレキの手拾い、2年目は、町民農園の復旧作業、3年目の今年、国際トライアスロン大会開催に備えた「湊浜」のビーチクリーン作業を、一丸となって行いました。一生懸命作業した後は、町民やボランティアセンタースタッフとの交流会を行い、得意の合唱や応援を披露しています。この活動を安全に実施するとともに、震災時の様子や復興の状況を学ぶための講師派遣をスムーズに行うために、「いのちの教育推進に関する覚書」を七ヶ浜町社会福祉協議会と交わしています。



ポリオワクチン接種推進のためのエコキャップ回収

途上国の子どものためのポリオワクチン接種を推進するために、地域のエコキャップ推進事業所や公民館等と連携した活動を行っています。生徒が家庭から持ち寄ったり、公民館等広報で地域全体に呼びかけたりしてペットボトルキャップを収集しています。通常は、そのままエコキャップ推進事業所に寄贈しますが、本校ではキャップができるだけ早くワクチンになるように、全校生徒で、分別・シールはがし・洗浄等を行ってから寄贈します。



高齢者宅ゴミ出しボランティア

生徒会や行事等に行ったボランティア体験で身につけた力を、生徒個々が地域で余暇を利用して発揮できる場を設定しました。学区内の民生児童委員の皆さんに、支援の必要な高齢者、生徒の活動に協力していただける高齢者を紹介していただきました。その高齢者宅のゴミ出し支援を、登校途中に行える生徒のボランティアを学校が募集しました。1軒の高齢者宅に対して、複数の生徒が応募し、交代で活動を行っています。現在は、13軒の高齢者宅を40人ほどのボランティアがカバーしています。この活動は、平成25年度から行っており、卒業して高校生になっても活動を続けているボランティアが数多くいます。地域の活動として、このまま定着することを願っています。

参加している生徒からは、「祖父母が遠くに離れて暮らしているので、高齢者とふれあうことが楽しい。」「地域の昔話を聞くことができるので、ゴミ出しの日が来るのを楽しみにしている。」などの声が聞かれます。

活動したい生徒は他にも多くいますが、登校途中にできるという条件に当てはまらないため、残念がっています。民生児童委員の皆さんには、さらなる紹介をお願いしています。

